

草津市総合計画策定プロジェクトチーム会議

(リーディングプロジェクト研究チーム 第5回)

日時：平成21年6月4日（木）

18時から

場所：401会議室

1 開会

2 議事

リーディングプロジェクトの研究について

3 閉会

資料

資料1:プロジェクト会議等による確認事項

プロジェクト会議等による確認事項

① プロジェクトに結びつく概況

“元気” 関連	“潤い” 関連
<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通の要衝である。IC が十分に生かされていない。 ・ 有力な都市機能集積がある。 ・ 超高齢社会／成熟型社会にあつて、都市資源の集約と小地域での生活・市内移動の確保が重要。 ・ 近隣自治の体制の刷新、政府機能を担う時代への準備が必要。 ・ 地域生活の安心を守る上で、地域コミュニティ（地縁／テーマ）の役割が拡大。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市域に琵琶湖を含む。 ・ 農業基盤がある。 ・ 大都市近郊のベッドタウンとして発展した経緯(3/4 が転入者)などを踏まえ、市民文化が成熟の方向へ進みつつある。 ・ 「出会い」をキーワードとした歴史・文化がある。 ・ 多文化共生に積極的に取り組んでいる。 ・ 民生部門のエネルギー消費の多くを自家用車等が占める(脱自動車依存へ)
<p>“まちなか” 関連；“元気” “潤い” 共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市域を分断する草津川廃川敷地が、広大な低未利用地としてまちなかに残されている。 ・ コミュニティ FM が開局予定である。 	

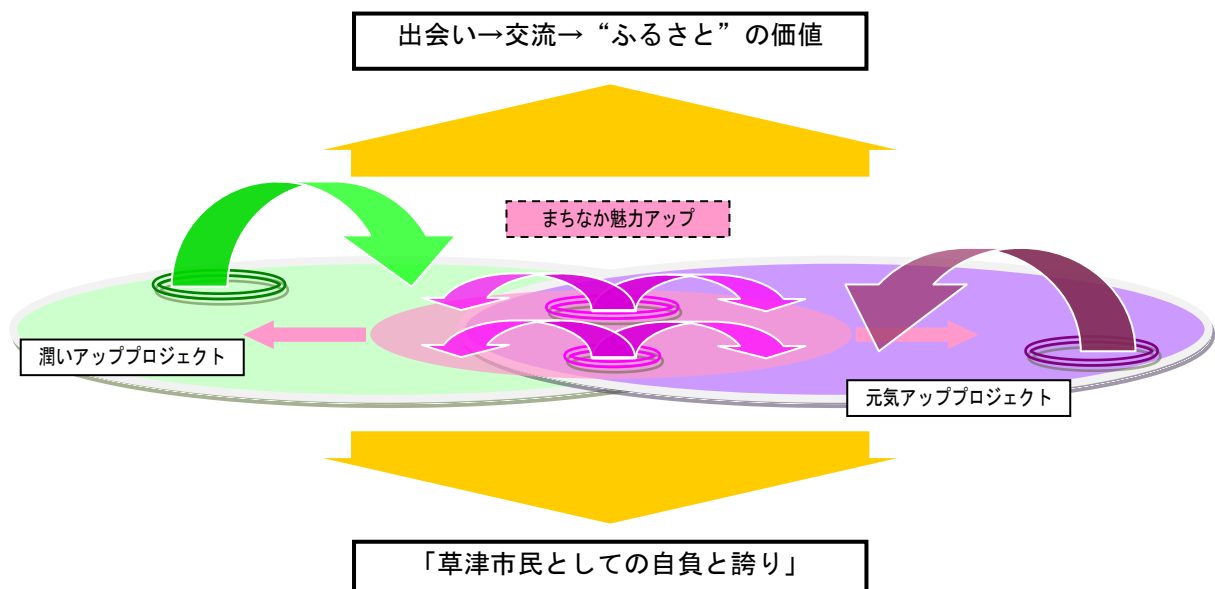
② プロジェクトの方向性と都市資源の活用

- 草津市全体が有する“コンパクトシティ”を成立させ得る条件を十分に生かして、また、学術・福祉拠点を強化・活用して、都市活力を高めていく。
 - 市内の円滑移動を確保・充実させることが重要。
 - IC と大学を、文化・産業などに結びつけていくことが重要。
- 湖岸共生拠点を強化・活用し、水・緑・歴史の“潤い”をキーワードに、“文化のかおる”まちづくりを進めていく。
 - 多様な“潤い”資源のネットワークが重要。
 - 多様な市民文化活動の振興が重要。
- “まちなか”の価値を高め、まち全体の魅力アップにつなげていく
 - 草津川廃川敷地など“まちなか”にある低未利用地の活用に具体的な方向性を示していくことが重要。

プロジェクトが進むことにより、

- ↓
- 出合いに交流が生まれ、市民にとっての“ふるさと”としての価値が高まる。
 - 市民の間に「草津市民であることの自負と誇り（シビック・プライド）」が醸成される。

リーディング・プロジェクトのイメージ



(3) プロジェクトのフレーム (案)

[ゴールイメージ (例)]

	短期 (～2012)	中期 (～2016)	長期 (～2020)
元気 アップ プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICと大学を生かした産業振興の方向性が定まり、新産業誘致等の具体的な取り組みが始まっています。 ○ 総合的な交通体系整備の方針が定まり、具体的な整備に向けて実証実験などの取組が始まっています。 ○ 大学生などが、まちなかを活動の場として積極的に生かし、地元住民との多様な交流活動が生まれています。 ○ JR草津駅前の再整備が端緒についています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ コンパクトシティとして、良質で持続可能な都市が形成され、これを継承していく市民の気風が育っています。 ○ 産業基盤整備とタイアップして新たな交通体系が整備され、市民による利用が始まっています。 ○ JR駅前や商店街などに特色ある商店等も加わり、活気づいています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市全体がコンパクトシティであり、身近なところに日常生活に必要な基本的な条件が整っています。 ○ そして、公共交通機関などにより、市内のあちこちを自在に移動できる手段が揃っています。
まちなか 魅力アップ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 草津川廃川敷地、JR敷地などの新しい活用に向けた取り組みが始まっています。 ○ 居心地のいいスペースが増えて、従来以上に、いろんな人がまちなかを楽しんでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 季節ごとに開催されるまちかどコンサートが市外からも人を呼び、盛り上がっています。 ○ まちなかに憩う人の間に語らいが生まれ、新しい市民グループが育っています。 ○ それぞれの市民グループが協働し、さらなる「まちなかのいこい」を生み出しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ まちなかは水と緑がいっぱい、さまざまな歴史資源が生かされています。 ○ 洗練された印象の都市空間に、さまざまな人が訪れ、集い、行き交って、にぎわいをつくっています。 ○ 子どもからお年寄りまで、誰もが文化かおるまちなかに憩い、楽しんでいます。
潤い アップ プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民一人ひとりが緑を育て、まちの潤いをつくる取り組みが軌道に乗っています。 ○ 「くさつエコ・ミュージアム」として、湖岸域の一体的な活用が行われています。 ○ コミュニティ FM 発の地元アーティストが、市民の人気を集め始めています。 ○ まちかどに市民の手による「作品」が設置され、優れた建築が顕彰されています。 ○ 歴史資源のネットワーク型の活用が始まっています。 ○ 主要な生活道路のバリアフリー化が一部進んでいます。 ○ サイクリング・ロード・ネットワークが計画され、一部の整備が始まっています。 ○ わかりやすく、安全に楽しめるまちとなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民が育てた花や緑がいきいきと育ち、新旧草津川を始めとして位置づけた「潤いネットワーク」が充実してきています。 ○ 「くさつエコ・ミュージアム」での、市民の手による活動が様々に取り組まれています。 ○ せせらぎや木陰をはじめ、訪れた人が記念撮影をするランドマークがあちこちにあります。 ○ 桜をはじめとした、季節を代表する名所があちこちにあり、人気のイベントが増えてきています。 ○ 生活道路のバリアフリー化がさらに進んでいます。 ○ サイクリング・ロード・ネットワークが概ね完成し活用されています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ バリアフリーの道づくりが進み、また、パーク&サイクルライドの仕組みも充実して、市民も来訪者も、誰もが徒歩や自転車などで快適に市内を巡ることができます。 ○ 「くさつエコ・ミュージアム」での、市民の手による活動が世界から注目を集めています。 ○ 子どもからお年寄りまで、誰もが草津への愛着を持っています。

3. リーディングプロジェクトのまとめ

(1) プロジェクトが含めるべき事業について

- リーディング・プロジェクトを構成する事業について、ご提案ください。
- 短期（～2012）的、中期（～2016）的に行うべき内容を併せてご記入ください。
- なお、短期的に行うべき内容については、なるべく詳細な事業イメージとしてください。

<p>元気 アップ プロジェクト</p>	<p>[事業提案] ○（事業名称） →（具体的な取り組み内容）</p> <hr/> <p>[理由] ・（事業を提案した理由）</p> <hr/> <p>[参考] ・参考事例、事業費の想定、財源見込みなど</p>	<p>[事業提案（例）] ○ 総合交通体系再編事業 → 乗り合いタクシーやBRTなどの新たな公共交通整備を含めた交通体系の研究 → 自宅と商店街や福祉・医療施設などの生活施設をオンデマンドで結ぶ公共交通の研究 → 交通案内の充実による、来訪者利便性の強化 等</p> <hr/> <p>[理由] ・コンパクトシティとしての価値を高めるうえで、“まちなか”やその他の都市資源集積を、市民と来訪者が自由に活用できることが望まれる。 ・過度の自動車依存から脱して環境負荷も小さくし、また、超高齢社会における円滑移動を充実させるため、新たな公共交通整備が求められる。</p> <hr/> <p>[参考] ・〇〇市で取り組んでいる。</p>
<p>まちなか 魅力アップ</p>	<p>[事業提案] ○（事業名称） →（具体的な取り組み内容）</p> <hr/> <p>[理由] ・（事業を提案した理由）</p> <hr/> <p>[参考] ・参考事例、事業費の想定、財源見込みなど</p>	<p>[事業提案（例）] ○ まちなか低未利用地活用事業 → 草津川廃川敷地活用計画の策定 → 西友跡地の暫定利用としての公園整備 等</p> <hr/> <p>[理由] ・“まちなか”に広大な低未利用地が残されている。この貴重な資源を有効に活用していく必要がある。</p> <hr/> <p>[参考]</p>
<p>潤い アップ プロジェクト</p>	<p>[事業提案] ○（事業名称） →（具体的な取り組み内容）</p> <hr/> <p>[理由] ・（事業を提案した理由）</p> <hr/> <p>[参考] ・参考事例、事業費の想定、財源見込みなど</p>	<p>[事業提案（例）] ○ 「うるおいネットワーク」整備事業 → 市民会議の開催 → 「うるおい草津・ふれあいマップ」づくり 等</p> <hr/> <p>[理由] ・水、緑、歴史の諸資源を活用して、まちと生活のうるおいをつくっていくことが求められる。 ・そのためには、市民がそれら資源対して親しみや愛着を感じることで、さらには、そうした市民の想いをつないでいくことが重要である。</p>